

# まなびの森

校長通信 第10号 R2.9.4  
廿日市市立吉和小・中学校  
校長 森岡 勝司  
TEL(0829)77-2010

教育目標「夢や目標をもち、果敢に挑戦し、自己実現する児童生徒の育成」

## 9月(長月)を迎えました!台風も心配ですが今月も頑張りましょう!

9月は旧暦で「長月(ながつき)」と言われてますが、この呼び名の由来には色々あるそうです。稲穂がもっとも長く成長することから、「穂長月(ほながつき)」が略されたという説。日が昇っている時間がどんどん短くなり、夜が長くなるから、「夜長月(よながつき)」が略されたというのが一般的な説であるとか。吉和の稲穂もすくすくと伸びている様子から、穂長月の方がイメージにあっていると思うのは私だけでしょうか。



さて、今週は、小学5・6年生と全中学生による合同道徳を行いました。教材は、冒険起業家である植田紘栄志氏の著書「ゾウのウンチが世界を変える」でした。本のタイトルにビックリされる方も多いのではないかと思います。本校が取り組んでいます、SDGs(持続可能な開発目標)をふまえた地域(吉和)づくりにつながる内容です。児童生徒の感想の一部を紹介します。裏面には教材の内容を簡単ですがまとめています。ご覧ください。

○私は、植田さんが環境の悪い所を見て、何とか助けたいと思って行動するところがすごいなと思いました。ペットボトルリサイクル工場がゾウのせいで壊されて、人々のため、ゾウのために「ぞうさんペーパー」を作ったのも、またすごいなと思いました。私もみんなにいいことができる事をやる時は、あきらめずに頑張りたいです。(小学生)

○初めてスリランカに行って、人々や動物を救いたいという一心で、ここまで頑張ったのはすごいなと思いました。それに、ワシントン条約で輸入できなくなっても、植田さんはあきらめないのが、すごい勇氣だと思いました。(小学生)

○人々や動物がゴミ山で生活していたのを見て、何かをしたいと考えるだけで、「すごいなあ。」と思いました。ゾウとスリランカの人々は、最初は仲が悪くて、それをどうにかしようと思ったのが「ぞうさんペーパー」で、ゾウのウンチからそんなことができるのがすごいことだし、植田さんも国境を乗り越えてまで人々、環境、ゾウさんを守るために、あきらめずに取り組んでいてとてもすてきだと感じました植田さんから学んだことは、守ろうという意識やあきらめずに挑戦すること、広い心を持つことが大切だと思いました。(中学生)

○自分とは全く関係のない人々のために、わざわざ日本に帰り、リサイクル技術を学び、スリランカに戻ったことがすごいと思いました。工場を壊したゾウに興味を湧いてきて、人とゾウとの共存のため、力を尽くしたことにびっくりしました。植田さんのように、誰かのために力を尽くすことができる私になるため、頑張っていきたいと思いました。(中学生)

## 『教材の内容』

今から20年位前のスリランカは内戦状態で、生活環境は危険で、ジャングルには処理できないゴミが大量に捨てられていました。そのゴミの山を見て危機感を持った植田さんは、リサイクルの知識と技術がないため一度日本に戻りました。

そして、現地の人たちの思いにこたえるため、ペットボトルから服を作るリサイクル工場を作ろうと、リサイクルの専門家と一緒にもう一度、スリランカに行きました。そこで、捨てられたペットボトルから服を作る、リサイクルの工場を立ち上げ、地域住民の雇用の確保を図ります。ところが、そのリサイクル工場が野生のゾウに襲われ壊されます。その要因は、外国企業の森林伐採のために森のえさを失ったゾウが市街地に出没して、民家や畑を荒らし、人命をも奪う状況が生じたことによります。そのため、人々は罠でゾウを捕らえたり、銃で撃ったりして、多くのゾウが殺されているということでした。植田さんは、「なんとかゾウと人間が共生する道はないのだろうか?」と思います。すると、家族のお土産を買うためにデパートに行った折に、ゾウのウンチから作られた紙をみつけたことにより、「ゾウと人間の共存という理想」の実現へ向け、自分で工場を作り、地元スタッフを10人雇い、ゾウの糞のリサイクルペーパーを「ぞうさんペーパー」と名づけました。「ぞうさんペーパー」が売れば売れるほど、工場で働くスタッフが必要となり、仕事がないために兵役に就く若者が多かった地元の町での雇用を拡大することもでき、ゾウを敵視していた住民も、ゾウを大事にするようになったのです。さらに、ゾウの糞のリサイクル画用紙を使って環境絵画コンクールを行い、環境保全やエコに対する意識を高めるために活動を続けました。ワシントン条約による「ぞうさんペーパー」の輸出禁止の困難も、「自分はゾウを救い、ゾウと人をつなぐためにぞうさんペーパーを作っている。ゾウやスリランカの人を助けるためにやっているのです、ゾウを保護するためのワシントン条約と同じだ。」と訴え、関係機関との連携により輸出も認められました。（「ぞうさんペーパー」で得た売上金の一部はゾウの保護活動や子供たちの環境教育のために活用されています。）